

外為ウィークリービュー I 北米編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/07/19

リスク許容度が相場を動かす

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">ドル/円</a>	➡	米債務上限引き上げ交渉の行方は？ 予想レンジ: 77.90 ~ 80.00 円	2 - 3
<a href="#">カナダ/円</a>	➡	BOC声明が焦点に 予想レンジ: 81.70 ~ 85.20 円	4 - 5
<a href="#">経済指標 カレンダー</a>	一週間の予定を一覧で表示		6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## USD/JPY

## ドル/円 7/11~15の主な推移

※4時間足



7/11 Monday	欧州債務不安を背景に朝から対ユーロでドル高が進行すると、ドル/円でも80.82円までドル高が進んだ(①)。しかし、夕方に入るとユーロ/円の下げの影響をより強く受けてドル/円は反落。米国市場では80.10円まで値を下げた。
7/12 Tuesday	夕方、欧州債務不安を背景にユーロ/円が値を下げると、ドル/円はストップロス巻き込みながら79.17円まで急落した(②)。その後は反発したが上値は限られた。27時に米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録において「景気低迷が続いた場合の追加刺激策について当局の意見は分かれた」「高水準の失業率を低下させるには不十分なほど景気回復力が乏しく、インフレが予想通り低下した場合、さらなる金融緩和が必要になる」と一部メンバーが主張と、量的緩和第3弾が話題に上っていたことが明らかになると、一時、ドル/円は小幅にドル安が進んだ。
7/13 Wednesday	早朝の薄商いの時間を狙った仕掛け的な売りにより、ドル/円はストップロス巻き込みながら3月17日以来の安値水準である78.48円まで急落した(③)。すぐに79円台まで反発したが、79円台半ばでは上値が重く推移。さらに、23時から行われた米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長の下院の議会証言において、同議長が「経済が力強さを取り戻せば、金融緩和政策の縮小が正当化される可能性」としつつも「最近の経済の低迷が予想よりさらに長期化する可能性およびデフレリスクが再浮上する可能性が依然としてあり、追加の政策支援の必要性が示唆される」「政策金利がゼロに接近しても、我々には一段の金融緩和の方法がある」と述べた。追加量的緩和の可能性が示唆された市場は受け止め、ドル/円は78.88円まで下げた。
7/14 Thursday	6時頃、格付け会社ムーディーズが「米格付け『Aaa』を格下げ方向で見直す」と発表するとドル/円は78.64円まで急落。同社が「米連邦債務上限が引き上げられ、デフォルト回避なら格付け維持」と発表するとドル/円は反発したが、79円台では上値が重く、根強い米追加金融緩和観測を背景とするドル売りなどにより、78.45円まで下げた(④)。14時31分頃、ドル/円は突然急騰し、円売り介入観測などを絡めつつ約3分で79.60円まで上昇した。しかし「介入ではないだろう」との見方が広がると急速に上げ幅を縮小。その後は79.00円前後でもみ合うも、23時にバーナンキFRB議長が上院の議会証言で「現在のインフレは昨年より高く、まだ行動する用意はない」「一段の金融緩和は必要とされず、我々の問題構成を考えると効果的でない可能性」等と発言。前日の同議長発言を受けて高まった追加緩和期待が剥落し、ドル/円ではドル買い優勢となった。
7/15 Friday	格付け会社S&Pが米国のAAA格付けを「クレジットウォッチ・ネガティブ」とすることを発表すると、ドル/円は78.88円まで下落した(⑤)。しかしクロス円の上昇に連れてその後はジリジリと上昇。ただ、79円.20台では上値が重く、その後は動意に乏しいままドル/円は週を引けた。

## USD / JPY

## 上昇要因(ドル高・円安)

- ・米政策金利の早期引き上げ観測
- ・米長期金利の上昇
- ・米金融緩和策の巻き戻し観測
- ・日本の財政悪化懸念
- ・日銀による追加金融緩和への期待
- ・(本邦およびG7による)円売り介入

## 下落要因(ドル安・円高)

- ・米超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の低下
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・米追加金融緩和観測の台頭

## 今週の見通し

今週のドル/円相場は、先週の安値78.45円を底に足場を固めて上昇に転じるのか、それとも下値を試す流れになるのかがポイントとなる。

今週の米国では予定されている米連邦公開市場委員会(FOMC)要人の発言機会は少ないものの、経済指標については、6月住宅着工件数および建設許可件数(19日)、6月中古住宅販売件数(20日)、新規失業保険申請件数と7月フィラデルフィア連銀景況指数(21日)など、比較的重要な経済指標が発表される。予想よりも良好な結果ならドル高要因、予想よりも弱い結果ならドル安要因視されよう。

また、今週は米国の債務上限引き上げに絡む協議の行方も波乱要因となる見通し。オバマ米大統領と共和党の協議は難航しており、今週中に引き上げ合意に至らなければ、米国債は一部デフォルトになる可能性もある。市場は最終的にデフォルト回避のために上限引き上げで合意するものと見ているが、格付け会社大手3社は債務上限引き上げが合意に至らなければ米国の最高格付けを引き下げる方向で見直すことを発表しており、合意に至らなかった場合は格下げ観測を絡めて大きくドルが売られる公算が大きい。その場合、ドル/円は先週の安値78.45円を割り込んで一段安となりそうだ。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 77.90~80.00円)

# CAD/JPY

## カナダ/円 7/11~15の主な推移



7/11 Monday	欧州債務懸念がイタリアやスペインにまで拡大するとの懸念や、米国の債務上限引き上げをめぐる交渉が難航している事などを背景にNYダウ平均株価が一時180ドル超の下落となると、リスク回避の動きが強まり、カナダ/円は82.71円まで下落した。(①)
7/12 Tuesday	イタリア10年債利回りが1997年以来となる6%台に上昇するなど、欧州の債務・信用不安が拡大。リスク回避の動きが強まると、カナダ/円は80.98円の安値を付けた。しかし、その後は、欧州中銀(ECB)が欧州高債務国の国債を市場で購入したとの観測からユーロが買い戻されると、リスク回避の動きが後退し、カナダ/円も反発した。さらにその後、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録が公開され、数名のメンバーが追加緩和の必要性を指摘していた事が明らかになると、ドル売りが強まり、米ドル/カナダドルが下落。これにつれてカナダ/円は82.49円まで上昇した。(②)
7/13 Wednesday	早朝の薄商いの時間帯を狙った売り仕掛けから、ドル/円が約4カ月ぶり安値となる78.48円まで急落すると、カナダ/円もつれ安となり、一時81.25円まで下落した。(③)しかし、その後、中国の国内総生産(GDP)が予想以上の伸びとなった事を好感してアジア株が概ね堅調に推移すると、カナダ/円は82.66円まで反発した。
7/14 Thursday	ドル/円が、本邦当局による円売り介入を思わせるような動きで急騰すると、つれてカナダ/円も82.91円まで急上昇した。(④)しかし、ドル/円の上昇が介入によるものではなかったとの見方が広がると、すぐに上げ幅を縮小した。
7/15 Friday	欧州金融機関に対するストレステスト(健全性審査)の結果は、不合格は90行中8行、合計の資本不足額も25億ユーロと事前予想を大きく下回った。これを好感してユーロ/円が上昇した事につれてカナダ/円も83.01円まで上昇した。また原油価格が97ドル台まで上昇した事もカナダ/円の上昇要因となった。(⑤)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## CAD/JPY

## 上昇要因(カナダドル高・円安)

- ・世界経済回復期待の高まり  
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測
- ・原油など資源価格の上昇
- ・日銀の追加金融緩和への期待
- ・(本邦及びG7協調による)円売り介入

## 下落要因(カナダドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念  
→リスクを取ることに消極的になる
- 日米(主要国)株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測の後退
- ・中国など新興国の引き締め観測

## 今週の見通し

先週のカナダ/円相場は80.98円～83.89円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約1.0%の下落(カナダドル安・円高)となった。この間、日経平均株価は約0.9%の下落、NYダウ平均株価は約1.4%の下落、原油価格(WTI期近物)は約1.2%の上昇となっている。今週最も注目されるのは19日のカナダ中銀(BOE)政策金利発表だ。前回5月31日会合の声明では「景気拡大が継続し、現在見られる大幅な供給過剰が徐々に吸収される限り、インフレ目標達成に向けて、現行の大幅な金融緩和策の一部分はいずれ解消されるだろう」とした事を受けて、7月(今回)もしくは9月の利上げ観測が浮上した。しかし、米国経済の先行き不透明感や欧州債務問題をめぐる混乱などを背景に、今回の利上げ観測はほぼ消滅している。ただし、22日に発表される加6月消費者物価指数は前年比で+3.6%と2005年来の最高水準を記録した5月(+3.7%)から高止まりするとの予想となっており、今回の声明でもインフレ抑制のための利上げの必要性に言及する可能性が高いだろう。声明を受けて9月の利上げ観測が再浮上する事になれば、カナダ/円は強含みでの推移が予想される。もっとも、足元では、欧州債務問題や米国の債務上限引き上げ問題をめぐり、先行き不透明感が強い。21日には欧州連合(EU)首脳会議が行われ「ユーロ圏の金融安定化とギリシャ問題に絡む将来の融資について」話し合われる事になっている。また、オバマ米大統領は22日を債務上限引き上げ協議の期日に指定している。これらに絡んだ各種報道を受けて、カナダ/円は神経質な値動きとなる可能性もある。(神田)

(予想レンジ:81.70～85.20円)

## 経済指標カレンダー (7/18~22)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
7/18	—		<b>東京休場(海の日)</b>		
(月)	07:45	◎	(NZ) 第2四半期消費者物価 [前期比]	+0.8%	+0.8%
		◎	(NZ) 第2四半期消費者物価 [前年比]	+4.5%	+5.1%
	22:00	○	(米) 5月対米証券投資 [ネット長期フロー]	+306億USD	--
		○	(米) 5月対米証券投資 [ネットフロー合計]	+682億USD	--
	23:00		(米) 7月NAHB住宅市場指数	13	15
7/19	10:30	○	(豪) RBA議事録		
(火)	18:00	◎	(独) 7月ZEW景況感調査	-9.0	-11
	18:00		(ユーロ圏) 5月建設支出 [前月比]	+0.7%	--
	18:00		(ユーロ圏) 7月ZEW景況感調査	-5.9	--
	21:30	◎	(米) 6月住宅着工件数	56.0万件	57.5万件
	21:30	○	(米) 6月建設許可件数	60.9万件	60.0万件
	21:30		(加) 6月景気先行指数 [前月比]	+1.0%	--
	22:00	◎	(加) 加中銀政策金利発表	1.00%	--
7/20	14:00		(日) 5月景気動向指数・改訂値 [先行CI指数]	96.2	--
(水)			(日) 5月景気動向指数・改訂値 [一致CI指数]	103.6	--
	15:00		(独) 6月生産者物価指数 [前年比]	+6.1%	+5.5%
	17:00		(南ア) 6月消費者物価指数 [前年比]	+4.6%	+5.0%
	17:30	◎	(英) BOE議事録		
	20:00		(南ア) 5月実質小売売上高 [前年比]	+9.8%	--
	21:30		(加) 5月卸売売上高 [前月比]	-0.1%	--
	23:00	○	(米) 6月中古住宅販売件数	481万件	494万件
	23:00		(米) 6月中古住宅販売件数 [前月比]	-3.8%	+2.6%
	23:00		(ユーロ圏) 7月消費者信頼感・速報	-10.0	--
7/21	08:50		(日) 6月通関ベース貿易収支	-8558億円	-1486億円
(木)	17:00		(ユーロ圏) 5月经常収支	-51億EUR	--
	17:30	○	(英) 6月小売売上高指数 [前月比]	-1.6%	--
		○	(英) 6月小売売上高指数 [前年比]	±0.0%	--
	21:30	◎	(米) 7/16までの週の新規失業保険申請件数	40.5万件	--
	23:00	◎	(米) 7月フィラデルフィア連銀景況指数	-7.7	+4.5
	23:00		(米) 5月住宅価格指数 [前月比]	+0.8%	--
	23:00		(米) 6月景気先行指数 [前月比]	+0.8%	+0.2%
	未定	◎	(南ア) SARB政策金利発表	5.50%	--
7/22	10:30		(豪) 第2四半期輸入物価指数 [前期比]	+1.4%	+1.1%
(金)	17:00	◎	(独) 7月IFO景況指数	114.5	113.6
	20:00	○	(加) 6月消費者物価指数 [前月比]	+0.7%	-0.2%
		○	(加) 6月消費者物価指数 [前年比]	+3.7%	+3.6%
	21:30	○	(加) 5月小売売上高 [前月比]	+0.3%	--

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## 米主要企業決算予定

7/18 Monday	IBM、ハリバートン
7/19 Tuesday	コカ・コーラ、ハーレー・ダビッドソン、バンク・オブ・ニューヨーク・メロン、 バンク・オブ・アメリカ、ゴールドマン・サックス・グループ、 ウェルズ・ファーゴ、ステート・ストリート、アップル、ヤフー・インク、 ジョンソン・アンド・ジョンソン
7/20 Wednesday	USバンコープ、ノーザン・トラスト、クラルコム、アメリカン・エクスプレス、 イーベイ、インテル
7/21 Thursday	AT&T、マイクロソフト
7/22 Friday	マクドナルド、ベライゾン・コミュニケーション、ゼネラル・エレクトリック、 キャタピラー

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com